

元気な阿戸町だより
阿戸小・中学校一体型校舎落成記念特集号
 平成25年7月5日 阿戸町連合町内会発行



メールアドレス/atochounaikai-info@hyper.ocn.ne.jp
 ホームページアドレス//www.com-net2.city.hiroshima.jp/ato/

△町長松俣抄

校舎落成に思うこと

阿戸町連合町内会長 松田 康憲

私たちのふるさと阿戸町の長年の夢でありました校舎改築工事が、三月末に完成いたしました。

その間ご尽力いただきました関係者の皆様、心から敬意を表すとともに感謝を申し上げます。

学校は、地域の宝であり、元気の源です。このすばらしい校舎を心の拠り所とし、未来を担う子ども達と保護者、地域が一体となって、ますます元気な阿戸町を目指して行かなければならないと思います。

子どもの数が少しずつ減少しておりますが、小規模校ならではの良さを生かし「元気で、優しく、たくましい阿戸っ子」に子ども達が成長してくれることを願っております。

いつまでも、私たちは校舎落成の感激を忘れることなく、前を向き、歩んで参りたいものです。



小・中学校校長挨拶

落成式に感謝

阿戸中学校校長 藤本 恵

この度は阿戸小・中学校の校舎落成式を、町内の多くの皆様をお迎えして盛大に挙行できましたことを、心より感謝申し上げます。

紅白のおもちを頂いたり、式の挨拶の言葉から、阿戸小・中学校のことをこれだけ大切に思っただけだということ、子ども達や教職員に直接伝わるいい機会でした。



晴れの舞台で「阿戸小・中学校の歴史」を自分達でまとめ発表した執行部の子ども達にも大きな自信と力になりました。

また、工事を担当した監督さんが「今までは建物を完成しても感謝されるのがほとんどなく、今回は子ども達の歌声を聞いて涙をこらえるのに必死でした。」と打ち明けて下さったこともうれしいこの一つでした。

町内でお世話いただいた祝賀会はとても華やかで、学校に寄せる長年の思いをたくさん聞かせていただきました。

これまで係わって下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。

これを一つの節として、さらに伸びて参りたいと思います。

校舎落成に思うこと

阿戸小学校校長 谷川 利信

昨年の春、校舎改造工事が進められている中、引越しのために旧校長室の棚を整理していたところ、平成十七年八月付の「陳情書」が出てきました。当時の岡本茂信教育長様あてに提出された「陳情書」には、阿戸小学校PTAと阿戸町連合町内会の連名で、阿戸小学校プレファブ校舎早期解消のお願いについて、切々と訴えが書かれていました。

この度、念願の耐震工事に伴う小・中一体型校舎完成、そしてプレファブ校舎撤去が実現出

来ましたのも、歴代のPTA会長様、そして阿戸町連合町内会を始め多くの皆様方、また、阿戸町にかかわっていただいた皆様の大なるご尽力によるものと、深く感謝申し上げます。

さらに、教育活動を続けながら、引越し作業を繰り返してくれた教職員や児童生徒の皆さんに対して、お礼を申し上げます。

なにより阿戸の子ども達が良い環境の下で教育を受けることが出来るようになったのは、たいへん喜ばしいことです。

そして、この阿戸小・中連携校が、誰もが認める「郷土の学校」として皆様方に愛され発展していきますように、今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(2) 小・中学生生代表感想

新しい校舎 阿戸小 六年 横路 紗楽

阿戸小学校と阿戸中学校が一緒になった新しい校舎が完成しました。新しい校舎になってよいところがたくさんあります。まず、きれいな教室になって、私たちは毎日気持ちよく勉強しています。小学校を卒業したお兄さんやお姉さんに毎日会えます。

すれ違つ時、中学生の皆さんから挨拶をしたり、本の読み聞かせをしてくれたりして、中学生との触れ合いや、交流する機会が増えました。また、冷暖房が完備してあるお陰で、一年中勉強に集中しやすい環境になりました。

さらに、運動会や文化祭などを一緒に行うお陰で、お互いの頑張る姿がよく分かるようになりました。

阿戸の町にみんなをつなぐ絆となる学校を残すために力を尽くしていただき、こんな素晴らしい学校にしてください、本当に有難うございました。小学生は中学生の良いところをお手本にして頑張ります。そして小学生と中学生が力を合わせて、より良い阿戸の学校を伝え、創っていきます。



祖父の写真 阿戸中3年 谷本 純

落成祝賀式で写された「阿戸小・中学校の歴史」を見て、「小さいなー、周りに何も無いなー」などと思いつつ、プロジェクターで映し出された古い写真を見ていたら、「あれ!」と思う写真に気づきました。小さな校舎の前にいる生徒たちは、どこかで見たことがあるような気がしました。そうです。祖父の部屋です。

祖父の部屋には阿戸の古い写真が沢山あり、「橋が架かった時」などのように注釈が書いてあります。という事は、「あの写真の中に祖父がいるはずだ」と探しましたが画面が変わってしまいました。

結局祖父は見つかりませんでした。何気なく写された写真が、数十年後の今、大勢の方々の前で映し出され、歴史はこんな感じで伝わるものなのかと思いました。

“祖父と孫で同じ学校に通った”。そう考えると、「この道、このグラウンド、を祖父も通ったのかな」という事を想像してしまいます。

伝統を知り、そして感じる事が出来た、落成記念式典でした。



一体型校舎落成式 阿戸中2年 長岡 佑奈

阿戸小・中学校一体型校舎完成記念祝賀会がありました。小・中学校が一体型校舎になったことで、よいことがたくさんあります。

一つ目は、小学生と廊下ですれ違った時、元気に挨拶をしてくれることです。明るく元気な小学生を見ると、中学生も元気で頑張ろうという、温かい気持ちになれます。

二つ目は、中学生が小学生の見本にいつでもなれるということです。「見本にならなければ」という緊張感が良いことだと思います。

三つ目は、本の読み聞かせに行ったりして、小学生と中学生が触れ合う機会や場面が増えたからです。まだまだ良い事はたくさんあります。

これらの良い事をもっと生かし、お互いを高め合い、成長していければいいと思います。

落成式を新たなスタートの第一歩として、日々全員で歩んで生きたいと思っています。

小・中PTAのことば

☆校舎落成に思うこと

阿戸小学校PTA会長 山田 洋司

この度、落成式への参加の機会を頂きました。明治六年の誠義館より続く阿戸小・中学校の歴史を詳しく聞く事が出来、阿戸の地域に受け継がれてきた伝統、そして「今」を改めて考える機会となりました。

毎日学校へ通っている息子の姿を見てみると、自分自身の小学校時代をふと思つてあります。私は現在の阿戸小学校の規模とほぼ同じ全校児童百名の田並小学校（和歌山県）に通っていました。

平成二十年、田並小学校は百三十二年の歴史を刻み、廃校になりました。そのようなこともあり、児童生徒の数が減っているという現実の中で学校が続いて行く事、新しくなったという事へ、「力強さ」を感じています。私たちから子ども達へ伝えていかなければ、そしてそれが次の世代へと繋げていく事になるのだと実感しました。

今回、地域の皆様のご支援、PTAの皆様の協力により、小・中連携教育、小・中学校一体型校舎という形で次へと続いて行く事が出来たのだと、とても感謝しております。このような式典に参加させていただき、感謝しております。

☆落成式にあたって

阿戸中学校PTA会長 小森 崇

新校舎落成によって、長年校庭の一面を占めていた仮設のプレファブ校舎が撤去され、子ども達の教育環境が整備された事に、保護者の一人として本当に嬉しく思っています。

つい数年前には「学校の適正配置・統廃合」ということから、学校の存続そのものの危機を感じていました。それが今回、小・中一体型校舎という新たな形で、学校の歴史

(3)

を刻むことになりました。

これも学校と地域が一体となって「阿戸の子ども達を育てる」という熱い取り組みによって実現したものと、関係者の皆様方の尽力に感謝しております。この思いは保護者だけではなく、子ども達も後世に引き継いでいかなくなくてはならないと感じました。

これからも、阿戸小・中学校が町のシンボルとして永く、地域の皆さまに愛され、そして本校を卒業していく子ども達の「誇り」として、いつまでも心に刻まれるような学校で、あり続けて欲しいと願っています。



☆地域の方たちに感謝

阿戸小・中PTA 吉永 和美

保・幼・小・中連携への取り組み、落成式典での「小・中学校の歩み」の発表などから「当たり前前にある」と思っていた阿戸町の学校が、地域の方々の温かい大きな支えにより、「守られてきた」のだと改めて感じました。

お蔭様で子ども達を健やかに育む環境を整えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも保護者同士、協力し合って、心優しくたくましい阿戸っ子を地域の中で育てて行きたいと思っております。

阿戸学校卒業生の感想

☆昔の校舎の思い出

阿戸中 昭和三十三年卒 平田 泰宣

私の小・中学校時代の思い出は、六十年近く前のことになりました。当時の小学校は木造一階建ての校舎で、冬はすさまじく寒く、薪ストーブで暖を取り勉強していました。

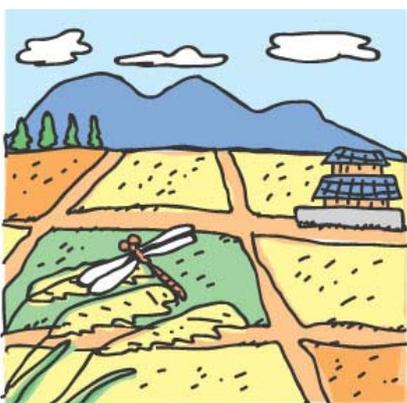
講堂や体育館も無いため、教室と教室の間にある仕切りの板戸を外して講堂の代わりに使っていました。

この講堂で文部省選定の映画を年に何回か鑑賞したことが、記憶に残っています。

中学校の校舎は現在の職員駐車場あたりに建てられた木造二階建ての校舎で、運動場も今よりずっと狭いものでした。

私のクラスは唯一、四十名を超える人数で、廊下の一部を教室に取り込んで改築し、同じ部屋で三年間勉強をしました。

新しい校舎は耐震構造、冷暖房完備の立派な校舎です。素晴らしい教育環境のもとで子ども達がたくましく育つ事を願っています。





「校舎落成に思うこと」

古井 智子

「二十年来の大きな宿題を片づけてもらったように」というのが現在の心境です。実は、我が子が小学校に入った頃、子どもたちの人数やパソコン教室等が増え、仮設であるはずのプレファブ校舎が建ち、はや二十年が経ってしまいました。

プレファブがなかなか解消されない時期にPTAの役員をしており、「グラウンドも狭くなり安全面でも課題があるので、早く解消出来ないか」と役員一回で頭を悩ませていたことを思い出します。

しかし、多くの関係者の方々の努力により、この度、念願の小・中学校一体化校舎が完成し、プレファブ校舎も解消されたことに感謝でいっぱいです。

今、時代は確実に変わり、阿戸小・中学校も少子化の波に揉まれていきます。新校舎という素晴らしい環境の中、小規模校の強みを生かした、保・幼・小・中の連携教育も始まっています。

この新校舎の落成が起爆剤となり、小・中学生の笑顔がますますあふれ、阿戸の宝である子どもたちが増えることを願うばかりです。

落成式・祝賀会の様子



編集後記

阿戸町民二十年来の願いであったプレファブ校舎の撤去が実現し、ご褒美のように素晴らしい校舎がプレゼントされました。

この素晴らしい教育環境から阿戸の将来を担う若者が巣立ってくれるものと期待しております。

(編集長 宇野)